



支部だより

東北支部

学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ

知的好奇心がもたらす心豊かな 社会の創造に向けて

特定非営利活動法人 natural science は、知的な好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に向けて、2005 年、東北大学大学院在学中に起業した筆者を含む学生と若手研究者によって設立し、仙台市を拠点に科学教育を行っている NPO 法人です。2007 年から開催し今回で 20 年目を迎える科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』には、日本化学会東北支部からも後援・協賛・賞創設のご協力をいただき、「学都『仙台・宮城』サイエンス・デイ創設による理科教育への貢献」により「日本化学会 第 36 回化学教育有功賞」も賜り深く感謝申し上げます。本稿では本取り組みの趣旨と経緯、今後の展望等についてご紹介します。

科学のプロセスを子どもから大人まで 五感で体験できる日

科学技術の高度化・ブラックボックス化が進行し、日常でその「プロセス」を実感する機会が急減する中、若者の理科離れや科学技術への受動的姿勢が深刻な社会課題となっています。次世代の継続的なイノベーションの創出には、単なる結果の伝達ではなく、誰もが自ら五感で「プロセス」に触れ知的な好奇心を育む実践の場と、それを地域全体で支え続ける持

続的な枠組みの構築が不可欠でした。

本取り組みは、「科学の結果だけでなくプロセスを子どもから大人まで五感で体験できる日」をコンセプトに、地域の知的資源を最大限活かした体験型・対話型の科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を核としています。2007 年に natural science 1 団体から始まり、現在では大学・研究機関・企業・行政等 200 以上の団体が参画し、1 日で約 1 万人が来場する全国最大級の科学イベントへ成長しました。

出展の唯一の条件は、研究者や技術者が日々行う試行錯誤の「プロセス」を、誰もが五感で体験できるプログラムであることです。東北大学や次世代放射光施設等の最先端研究機関から地域の企業・中高生まで多様な主体が自発的にリソースを持ち寄る「手弁当モデル」により、一過性の補助金に頼らない持続可能な開催を実現しています。毎年 100 を超えるプログラムに一度に触れられる機会を市民へ無償提供し、科学的思考力の育成や



サイエンスデイの様子

科学リテラシー向上に寄与しています。

お互いに健闘を褒め称え合う独自の 表彰システム

本イベント最大の特徴は、出展者・協賛者・来場者（主に小学生）がそれぞれの視点で賞を創設し、プログラムを評価・表彰し合う独自の顕彰システム「サイエンスデイ AWARD」です。これにより、多様な価値観を共有する双方向の理解増進の場を実現するとともに、受賞や多角的な評価が出展者への強力なフィードバックとして働くことで、コンテンツ全体の質が自発的に高まり続ける好循環を生み出しています。

「科学・技術の地産地消」

さらに、地域の知的資源が教育的価値として地域へ還元される循環を「科学・技術の地産地消」と銘打ち、サイエンスデイを核に「学都『仙台・宮城』サイエンスコミュニティ」を形成。現在では、大学・研究機関や企業、行政など約 300 団体が参画し、約 4 万人の市民が会員登録する基盤を確立しています。近年は他地域や他主体によるサイエンスデイの開催も増えており、今後もさらなる連携の輪が広がっていくことを願っています。

〔大草芳江
（特定非営利活動法人 natural science）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan